

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年5月12日
【四半期会計期間】	第25期第2四半期（自平成29年1月1日至平成29年3月31日）
【会社名】	アクセルマーク株式会社
【英訳名】	AXEL MARK INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 尾下 順治
【本店の所在の場所】	東京都中野区本町一丁目32番2号
【電話番号】	03 - 5354 - 3351
【事務連絡者氏名】	経理財務本部長 鈴木 啓太
【最寄りの連絡場所】	東京都中野区本町一丁目32番2号
【電話番号】	03 - 5354 - 3351
【事務連絡者氏名】	経理財務本部長 鈴木 啓太
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第24期 第2四半期 連結累計期間	第25期 第2四半期 連結累計期間	第24期
会計期間	自平成27年 10月1日 至平成28年 3月31日	自平成28年 10月1日 至平成29年 3月31日	自平成27年 10月1日 至平成28年 9月30日
売上高 (千円)	1,257,110	1,957,058	3,200,472
経常損失 () (千円)	84,541	23,591	385,160
親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失 () (千円)	85,437	31,668	458,980
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	89,830	27,952	515,736
純資産額 (千円)	1,422,196	970,059	998,071
総資産額 (千円)	2,491,712	2,027,343	2,248,534
1株当たり四半期(当期)純損失金額 (円)	19.55	7.25	105.01
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	54.8	47.3	43.9
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	128,240	93,725	335,086
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	73,946	41,553	101,851
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	657,250	16,500	643,336
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	1,390,619	1,176,999	1,141,955

回次	第24期 第2四半期 連結会計期間	第25期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成28年 1月1日 至平成28年 3月31日	自平成29年 1月1日 至平成29年 3月31日
1株当たり四半期純損失金額 () (円)	11.98	16.57

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失金額であるため記載しておりません。

2【事業の内容】

当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるモバイルインターネットを取り巻く環境は、引き続きスマートフォン利用者の多様化が進んでおり、スマートフォン利用者の増加傾向が続いております。一方で普及のスピードは徐々に緩やかになってきました。モバイルコンテンツ市場においても同様に成長速度の鈍化傾向が見られます。インターネット広告市場は「2016年日本の広告費」(株式会社電通 発表)によるとモバイルシフトが進み、スマートフォン広告が伸長しており、引き続き市場の拡大が見込まれます。

このような市場環境の下、当社は「持続的成長構造の構築」を当連結会計年度の事業戦略に掲げて取り組んでまいりました。当第2四半期連結会計期間では公式ライセンス商品のみを扱うサービス「coscrea(コスクレア)」を開始いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高1,957,058千円(前年同期比55.7%増)、営業損失20,006千円(前年同期は81,680千円の営業損失)、経常損失23,591千円(前年同期は84,541千円の経常損失)、親会社株主に帰属する四半期純損失31,668千円(前年同期は85,437千円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

各セグメントの業績は、次の通りであります。

(モバイルゲーム事業)

当第2四半期会計期間は、「ワールドクロスサーガ -時と少女と鏡の扉-」(以下「ワクサガ」)にてゲーム内バランスが悪化しユーザーが減少、その後バランス調整を行い、ユーザーの増加及び長期的な定着に注力してまいりました。また、海外での配信許諾タイトル「馭時之輪」では、配信許諾先においてオープンテストを行った結果、市場に合わせたゲームの調整が必要との判断に至り、本格サービスの開始が後ろ倒しとなっております。「キングダム -英雄の系譜-」は2周年を迎え、引き続き堅調に推移しております。開発を進めているゲームタイトルは引き続き費用が先行して発生しております。前四半期比では減収減益となったものの、前年同期比では増収増益となりました。

以上の結果、当セグメントの売上高は1,165,838千円(前年同期比143.8%増)、セグメント利益は77,226千円(前年同期は10,756千円のセグメント損失)となりました。

(広告事業)

広告効果の改善や「ADroute」の新機能の追加、リッチメディア広告(リッチアド)領域の拡充に注力してまいりました。高い水準の広告効果を評価され、前年同期比で業績が伸びております。

以上の結果、当セグメントの売上高は789,913千円(前年同期比27.9%増)、セグメント利益は31,743千円(前年同期比327.4%増)となりました。

(2) 財政状態の分析

当第 2 四半期連結会計期間末の総資産は、現金及び預金が35,044千円増加したものの、売掛金が121,020千円、仕掛品が82,224千円、その他の流動資産が74,304千円減少したこと等により前期末に比べて221,190千円減少し、2,027,343千円となりました。

負債については、買掛金が29,654千円、その他の流動負債が143,780千円減少したこと等により前期末に比べて193,177千円減少し、1,057,284千円となりました。

純資産については、親会社株主に帰属する四半期純損失31,668千円の計上等により、前期末に比べて28,012千円減少し、970,059千円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第 2 四半期連結会計期間末における「現金及び現金同等物」（以下「資金」といいます。）は、前連結会計年度末に比べて35,044千円増加し、当第 2 四半期連結会計期間末の資金残高は1,176,999千円となりました。

当第 2 四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況と主な内訳は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、93,725千円の獲得（前年同期は128,240千円の使用）となりました。これは主に、未払金の減少148,831千円があったものの、のれん償却及び減価償却費等の計上30,582千円、売上債権の減少121,020千円、たな卸資産の減少82,896千円等があったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、41,553千円の使用（前年同期は73,946千円の使用）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出19,690千円、敷金の差入による支出16,587千円等があったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、16,500千円の使用（前年同期は657,250千円の獲得）となりました。これは、長期借入金の返済による支出に16,500千円があったことによるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第 2 四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	17,000,000
計	17,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成29年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成29年5月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	4,370,900	4,370,900	東京証券取引所 (マザーズ)	単元株式数 100株
計	4,370,900	4,370,900	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成29年5月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
平成29年1月1日～ 平成29年3月31日	-	4,370,900	-	563,900	-	148,821

(6) 【大株主の状況】

平成29年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社セブテーニ・ホールディングス	東京都新宿区西新宿八丁目17番1号	1,306,500	29.89
尾下 順治	東京都武蔵野市	165,300	3.78
株式会社SBI証券	東京都港区六本木一丁目6番1号	128,300	2.94
松井証券株式会社	東京都千代田区麹町一丁目4番地	75,800	1.73
長谷川 幹	埼玉県熊谷市	61,000	1.40
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目2番10号	60,200	1.38
野村證券株式会社	東京都中央区日本橋1丁目9番1号	41,199	0.94
入野 八郎	高知県香南市	33,000	0.75
元井 理志	兵庫県芦屋市	32,400	0.74
株式会社アサツーディ・ケイ	東京都港区虎ノ門一丁目23番1号	30,000	0.69
永富 義人	東京都品川区	30,000	0.69
計	-	1,963,699	44.93

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,370,000	43,700	完全議決権株式であり、 権利内容に何ら限定のない 当社における標準となる 株式
単元未満株式	普通株式 900	-	-
発行済株式総数	4,370,900	-	-
総株主の議決権	-	43,700	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式33株が含まれております。

【自己株式等】

平成29年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 株式数の割合 (%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

(注) 当社は、単元未満自己株式33株を保有しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成29年1月1日から平成29年3月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成28年10月1日から平成29年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、当社の監査人は次のとおり交代しております。

第24期連結会計年度	新日本有限責任監査法人
第25期第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間	太陽有限責任監査法人

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,347,955	1,382,999
売掛金	437,183	316,163
仕掛品	106,199	23,974
貯蔵品	1,647	975
その他	131,074	56,770
流動資産合計	2,024,060	1,780,883
固定資産		
有形固定資産	46,250	59,378
無形固定資産		
のれん	38,263	13,265
その他	1,877	21,776
無形固定資産合計	40,140	35,042
投資その他の資産	138,082	152,038
固定資産合計	224,473	246,459
資産合計	2,248,534	2,027,343
負債の部		
流動負債		
買掛金	204,951	175,297
1年内返済予定の長期借入金	33,000	33,000
未払法人税等	6,924	4,881
賞与引当金	32,335	31,135
その他	325,500	181,720
流動負債合計	602,712	426,034
固定負債		
長期借入金	647,750	631,250
固定負債合計	647,750	631,250
負債合計	1,250,462	1,057,284
純資産の部		
株主資本		
資本金	563,900	563,900
資本剰余金	1,117,172	1,117,172
利益剰余金	684,882	716,550
自己株式	25	25
株主資本合計	996,165	964,497
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,368	4,864
その他の包括利益累計額合計	9,368	4,864
新株予約権	2,872	2,872
非支配株主持分	8,402	7,553
純資産合計	998,071	970,059
負債純資産合計	2,248,534	2,027,343

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年3月31日)
売上高	1,257,110	1,957,058
売上原価	827,025	1,299,400
売上総利益	430,084	657,658
販売費及び一般管理費	511,764	677,665
営業損失()	81,680	20,006
営業外収益		
受取利息	358	87
為替差益	-	1,085
事業譲渡益	830	-
保証金等返還益	-	2,009
その他	721	1,228
営業外収益合計	1,910	4,410
営業外費用		
支払利息	637	3,191
株式上場関連費用	2,399	2,910
投資事業組合運用損	1,526	1,740
その他	207	153
営業外費用合計	4,771	7,995
経常損失()	84,541	23,591
税金等調整前四半期純損失()	84,541	23,591
法人税、住民税及び事業税	1,615	8,865
法人税等合計	1,615	8,865
四半期純損失()	86,156	32,457
非支配株主に帰属する四半期純損失()	719	789
親会社株主に帰属する四半期純損失()	85,437	31,668

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年3月31日)
四半期純損失()	86,156	32,457
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,673	4,504
その他の包括利益合計	3,673	4,504
四半期包括利益	89,830	27,952
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	89,111	27,163
非支配株主に係る四半期包括利益	719	789

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	84,541	23,591
減価償却費	4,459	5,585
のれん償却額	24,997	24,997
賞与引当金の増減額(は減少)	4,493	1,199
ポイント引当金の増減額(は減少)	815	-
受取利息及び受取配当金	358	87
支払利息	637	3,191
投資事業組合運用損益(は益)	1,526	1,740
売上債権の増減額(は増加)	44,087	121,020
たな卸資産の増減額(は増加)	40,794	82,896
仕入債務の増減額(は減少)	37,039	41,498
未払金の増減額(は減少)	15,675	148,831
未払消費税等の増減額(は減少)	23,910	32,474
その他	69,316	29,694
小計	95,807	86,392
利息及び配当金の受取額	361	61
利息の支払額	190	3,164
法人税等の支払額	32,604	10,035
法人税等の還付額	-	20,471
営業活動によるキャッシュ・フロー	128,240	93,725
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	312,000	212,000
定期預金の払戻による収入	312,000	212,000
有形固定資産の取得による支出	45,559	19,690
無形固定資産の取得による支出	-	5,288
出資金の払込による支出	60,300	-
敷金の差入による支出	-	16,587
敷金の回収による収入	31,712	-
その他	200	13
投資活動によるキャッシュ・フロー	73,946	41,553
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	40,000	-
長期借入れによる収入	700,000	-
長期借入金の返済による支出	2,750	16,500
財務活動によるキャッシュ・フロー	657,250	16,500
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	627
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	455,062	35,044
現金及び現金同等物の期首残高	935,556	1,141,955
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,390,619	1,176,999

【注記事項】

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(連結納税制度の適用)

当社及び一部の連結子会社は、第1四半期連結会計期間より連結納税制度を適用しております。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年3月31日)
給料手当	205,353千円	218,136千円
広告宣伝費	15,548	119,373
のれん償却費	24,997	24,997
賞与引当金繰入額	27,668	30,328
減価償却費	4,031	5,132

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年3月31日)
現金及び預金	1,696,619千円	1,382,999千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	306,000	206,000
現金及び現金同等物	1,390,619	1,176,999

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成27年10月1日 至平成28年3月31日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成28年10月1日 至平成29年3月31日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成27年10月1日至平成28年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	モバイル ゲーム事業	広告事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	478,175	617,442	1,095,617	161,492	1,257,110	-	1,257,110
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	478,175	617,442	1,095,617	161,492	1,257,110	-	1,257,110
セグメント利益又は損失 ()	10,756	7,426	3,330	19,467	16,136	97,817	81,680

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、コンテンツ事業等を含んでおり
 ます。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主
 な内訳(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	3,330
「その他」の区分の利益	19,467
全社費用(注)	97,817
四半期連結損益計算書の営業損失	81,680

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社管理費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
 該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成28年10月1日至平成29年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	モバイル ゲーム事業	広告事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,165,838	789,913	1,955,751	1,307	1,957,058	-	1,957,058
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	1,165,838	789,913	1,955,751	1,307	1,957,058	-	1,957,058
セグメント利益又は損失 ()	77,226	31,743	108,970	24,131	84,838	104,845	20,006

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、コンテンツ事業等を含んでおり
 ます。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内訳（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	108,970
「その他」の区分の利益	24,131
全社費用（注）	104,845
四半期連結損益計算書の営業損失	20,006

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社管理費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
 該当事項はありません。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、平成28年9月1日付でコンテンツ事業を譲渡したため、報告セグメントを従来の「モバイルゲーム事業」「広告事業」「コンテンツ事業」の3区分から、「モバイルゲーム事業」「広告事業」の2区分に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

（1株当たり情報）

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 （自平成27年10月1日 至平成28年3月31日）	当第2四半期連結累計期間 （自平成28年10月1日 至平成29年3月31日）
(1) 1株当たり四半期純損失金額（ ）	19円55銭	7円25銭
（算定上の基礎）		
親会社株主に帰属する四半期純損失金額（ ） （千円）	85,437	31,668
普通株主に帰属しない金額（千円）	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失金額（ ）（千円）	85,437	31,668
普通株式の期中平均株式数（株）	4,370,867	4,370,867

（注）潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 5月12日

アクセルマーク株式会社

取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 柏木 忠 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 岩崎 剛 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアクセルマーク株式会社の平成28年10月1日から平成29年9月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成29年1月1日から平成29年3月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成28年10月1日から平成29年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アクセルマーク株式会社及び連結子会社の平成29年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

その他の事項

会社の平成28年9月30日をもって終了した前連結会計年度の第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間に係る四半期連結財務諸表並びに前連結会計年度の連結財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって四半期レビュー及び監査が実施されている。前任監査人は、当該四半期連結財務諸表に対して平成28年5月13日付けで無限定の結論を表明しており、また、当該連結財務諸表に対して平成28年12月20日付けで無限定適正意見を表明している。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。